

就労支援の充実・強化について

峰 裕美

都内の社会福祉法人さんがやっている就労移行支援のカフェにおじゃましてきました。

このカフェは一部を犬と一緒に利用できるドッグカフェとして営業。もともとは数年前から犬用のクッキーを自主製品として製造・販売しており、その後にカフェをオープンさせました。カフェを開店させてから、地域の人たちが利用してくれるようになり、障害者就労に対しての理解が深まってきたそうです。支援員さん達は工賃UPを目指し、自主製品の販路拡大に努め、自主製品の充実等に注力していました。

以下に気づいた点を記します。

- ① 支援員さんは、カフェの仕事と就職活動（就職先を拡大することなど）で、時間が足りない。人員不足が問題である。
- ② 就職後の定着フォローは、移行の流れで社会福祉法人の支援員がそのままやっている場合が多い。このため、就職した人が増えれば増えるだけ、定着フォローをする人数も増える。すると就労移行支援に平行して、フォローを行う時間も増え、手が回らなくなる。人員不足問題。
- ③ 定着フォローには何の加算もつかないため、法人等が無償で行っている。就労支援だけでなく、定着支援のような形での加算がつけば人員を増やせるのではないだろうか？
- ④ 工賃をUPするためには、下請けの作業ばかりでは不安定である（仕事を依頼してくれる会社が倒産すれば下請けの仕事もなくなる）。そこで自主製品の開発と、その販路拡大は工賃UPにつながる。また、利用者さんもプライドを持って製品づくりができるそうである。今は地域のボランティア・学生ボランティアの力も借りながら、製品づくりを行っているが、このような活動に対して、何らかの助成制度や、バックアップの仕組みがないものだろうか？
- ⑤ ジョブコーチの講習を受けるには、就労移行支援の経験や年数などの条件がそろわなくてはいけない。しかし、就労移行・定着のための人員確保は十分でないと感じる。そこで、もっと幅広く、人員育成を実施することはできないか？（経験が浅い人も無条件に受講できるということではなく、その経験に合ったプログラムということ）

以 上